

# AGI 東アジア12カ国・地域経済動向

東アジア 12カ国・地域の経済動向を、主要統計のグラフとアジア成長研究所（AGI）の研究員による解説とともにお知らせいたします。（2022 年第 4 四半期）

## グラフの読み方

### 図 1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率 一国経済の基本的な経済動向を読む

- 実質 GDP 国内総生産（GDP：Gross Domestic Product）は、国内で生み出された財・サービスの付加価値の総計である。GDP には名目値と実質値があり、そのうち実質 GDP の伸び率は経済成長を測る代表的な指数である。
- GDP デフレータ 名目 GDP を実質 GDP で除した値として計算される。その伸び率は、名目 GDP の価格上昇分を表し、インフレの程度を知ることができる。GDP デフレータのプラスの伸び率が高いほどインフレ傾向にあり、マイナスの伸び率が高いほどデフレ傾向にある。

### 図 2：貨幣供給量と国内信用の伸び率 政府の金融政策と景気の間を読む

- 貨幣供給量 経済全体に流通している貨幣の総量。通常、金融政策は中央銀行が貸出や公定歩合操作、債券売買や外為市場介入等を行うことによって実施される。金融政策により貨幣供給量が増加すれば、短期的には経済が拡大するが、長期的には貨幣価値が下がるので物価の上昇を招きやすい。M1 とは現金の流通額と預金（当座預金、普通預金等）を合わせたもので、M2 は M1 に定期預金、外貨預金等を合わせたものである。
- 国内信用 銀行部門の貸出等（信用）の総額。政府向け信用と民間向け信用に大別される。政府向け信用は主に銀行の国債保有残高、民間向け信用は主に企業向け貸出額にあたる。この伸び率が高ければ、国内市場に循環する資金が増加したことを示す。なお、一部の国では国内債権（Domestic Claims）を使用している。

### 図 3：消費者物価指数、株価指数、為替レート指数 インフレと景気動向を読む

- 消費者物価指数 消費者が購入する財・サービスの価格を加重平均したもの。インフレの程度を測る代表的な指数である。指数が上昇すればインフレ傾向にあり、下落すればデフレ傾向にある。
- 株価指数 株式市場の上場銘柄全体の値動きを表す指標である。景気（および人々の期待）の動向を知ることができる。指数の継続的な上昇は好況を、継続的な下降は不況を示唆する。
- 為替レート指数 本国通貨と米ドルとの交換レート（ドル／本国通貨）。指数の上昇は本国通貨高、下落は本国通貨安を示す。本国通貨高は輸入価格の下落により、輸入がしやすくなる一方、対外的に見て、輸出価格が上昇するので輸出が難しくなる。

### 図 4：輸出額と輸入額 対外経済部門の動向を読む

- 輸出額 輸出数量×輸出価格。輸出は外貨獲得の重要な手段である。
- 輸入額 輸入数量×輸入価格。資本財や中間財の輸入は国内の生産能力を増大させ、消費財の輸入は消費者の満足度を高める。



公益財団法人

アジア成長研究所

〒803-0814 北九州市小倉北区大手町 11-4 / TEL：093-583-6202 / URL：<http://www.agi.or.jp>

# 日本の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

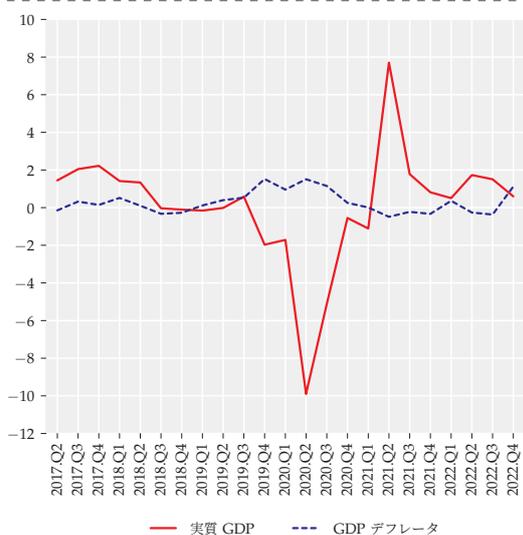


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

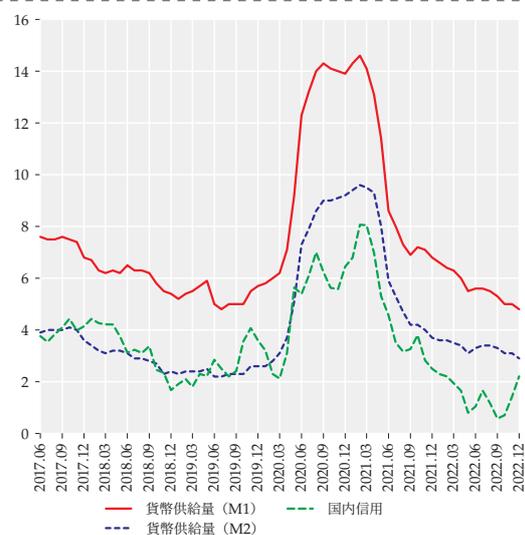


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

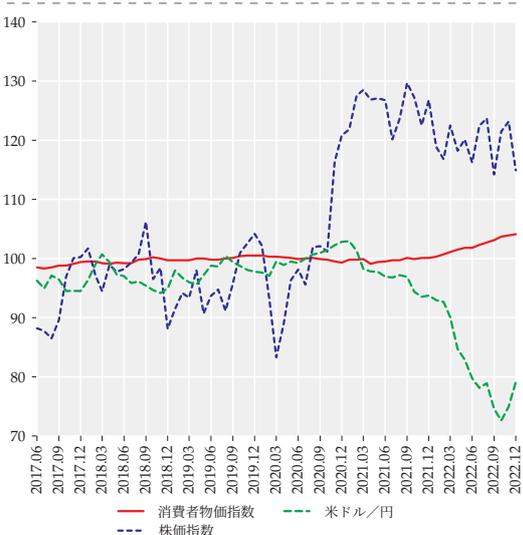
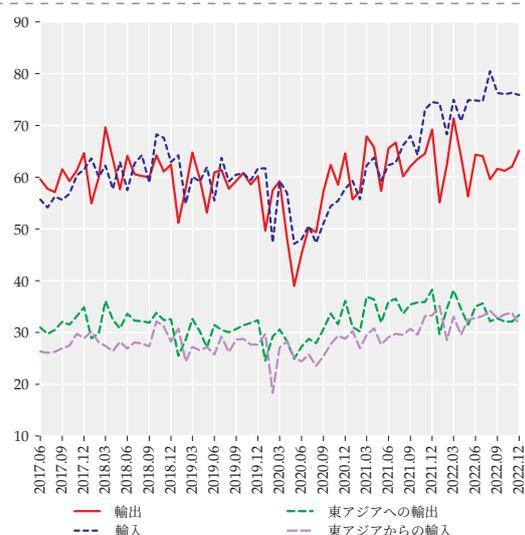


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



## 日本経済の動向 (2022年第4四半期)

2022年第4四半期の実質 GDP の伸び率は2期連続で減速し、0.60%となった(前年同期比, 速報値)。民間最終消費支出が前年同期比で1.25%(前期は3.60%)増にとどまり、消費の減速が景気を押し下げた。一方、政府最終消費支出が1.66%(同0.30%)と加速し、公的固定資本形成も-2.66%とマイナスではあるものの前期(-4.80%)よりも改善し、経済を下支えした。2021年末から続いた円安傾向は、2022年10月におよそ32年ぶりとなる1米ドル=151円台の円安を記録して以降、持ち直している。しかし物価は10月以降も上昇しており、12月には物価上昇率がおよそ41年ぶりに4.0%(前年同月比)を超え、さらなる消費低迷が懸念される。また、貿易赤字が拡大傾向にあり、2023年1月には過去最大となるおよそ3.5兆円の赤字を記録した。ウィズコロナを前提とした経済活動の活発化が期待されるが、変異株の出現、国際情勢や資源価格の動向など不確実性の大きな要素も多い。日本経済の先行きは不透明であり、下振れリスクも大きい。(田村一軌)

## 中国の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

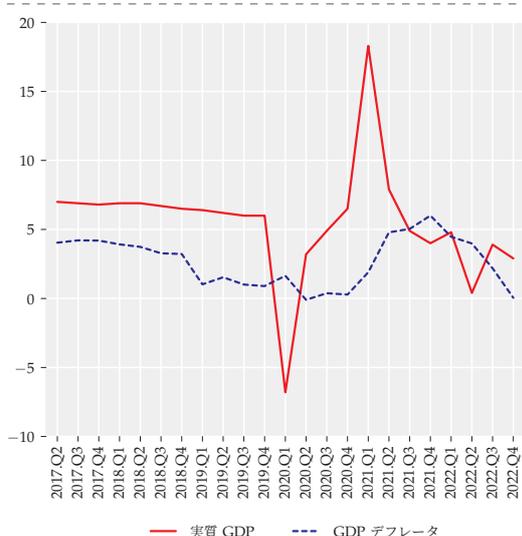


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

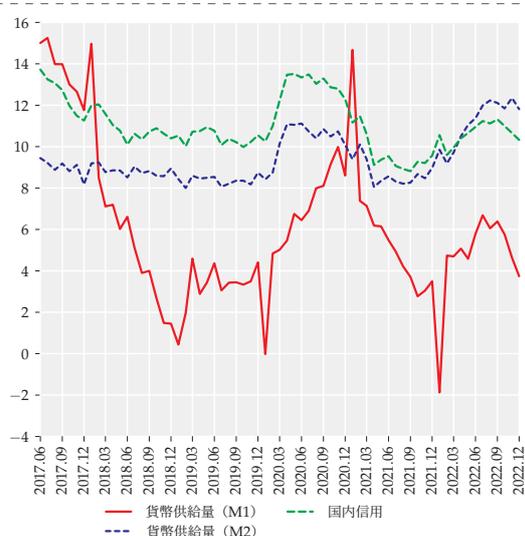


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

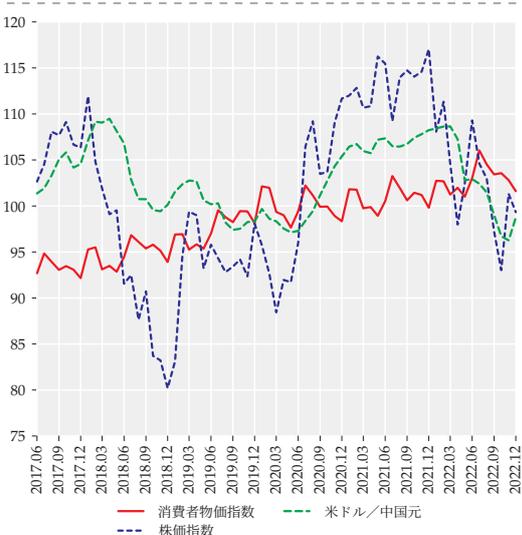
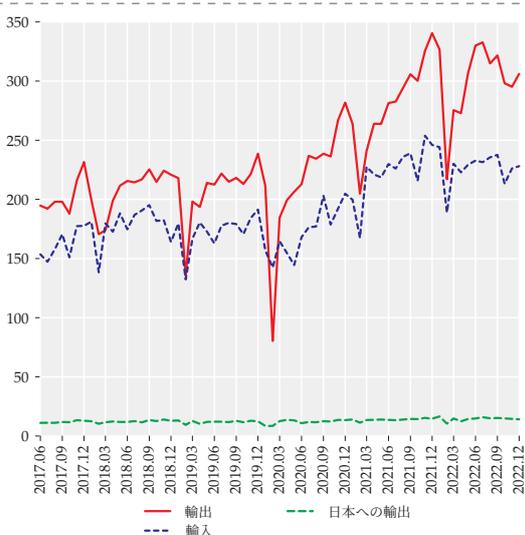


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### 中国経済の動向 (2022年第4四半期)

第4四半期の対前年同期比実質 GDP 成長率は 2.9 % となった。産業別の成長率をみると、第一次・第二次・第三次産業はそれぞれ 4.0 %、3.4 %、2.3 % であった。第三次産業の内、情報通信関連サービス業は突出した高い成長率 (10.0 %) を保ったが、ゼロコロナ政策に大きく影響された宿泊飲食業・交通輸送業・不動産業の成長率は、それぞれ -5.8 %、-3.9 %、-7.2 % と大きく下落した。需要別貢献度をみると、国内最終消費は 6.7 %、固定資本形成は 135.3 %、純輸出は -42.0 % となっている。経済の停滞とゼロコロナ政策による政治リスクを考慮し、12月7日から、政府は堅持してきたゼロコロナ政策を撤廃した。政策の急転換に伴い、感染者数は一時驚くべきスピードで急増したが、2023年1月下旬以降、全国範囲の集団免疫がほぼ達成されたとみられ、国内旅行と関連消費が 2019年並みの高水準へ急速に回復している。こうした動向を受け、IMF は 2023年の中国の経済成長率は 2022年の 3.0% から 5.2% へリバウンドすると予測している。(戴 二彪)

## 香港の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

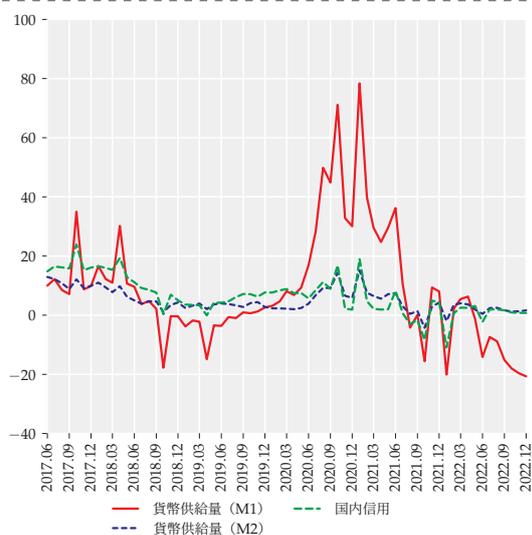


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

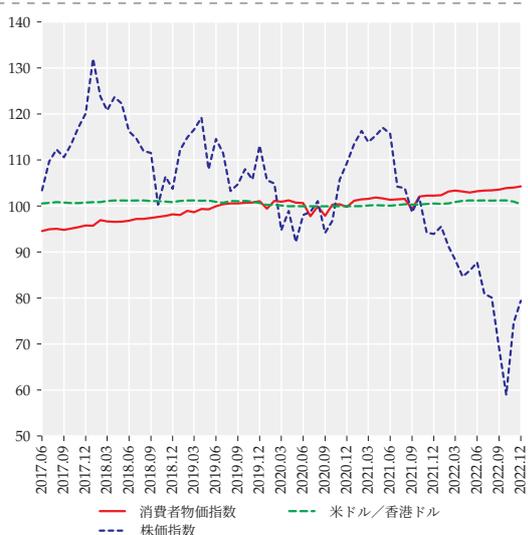
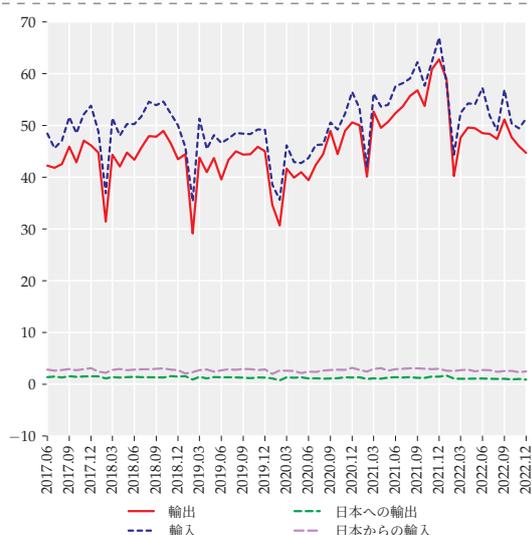


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### 香港経済の動向 (2022年第4四半期)

香港政府の発表によると、2022年第4四半期の対前年同期比実質 GDP 成長率は -4.2% となり、2022年通年の成長率は -3.5% と 2021年の 6.4% から大きく反落した。第4四半期では、香港のコロナ関連規制の緩和によって、民間消費は 1.9%、サービス輸出は 2.0% とそれぞれプラス成長に回復し、政府消費は 9.1% も伸びたが、米国の連続利上げ及びそれに追随する香港の金融政策の影響で、固定資本形成の伸び率は -10.9% も下落した。さらに、中国本土のゼロコロナ政策が 2022年12月上旬まで続いていたので、香港の中国関連の中継貿易は低迷し続けている。第4四半期の財貨総輸出は対前年同期比 -24.9% と急落し、第3四半期の -15.8% よりも悪化した。一方、中国政府が 12月7日から 2020年以来堅持してきたゼロコロナ政策を放棄したため、2月22日に香港政府は、2023年通年の香港実質 GDP 成長率予測値は 3.5~5.5% になると発表した。

(戴 二彪)

## 韓国経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

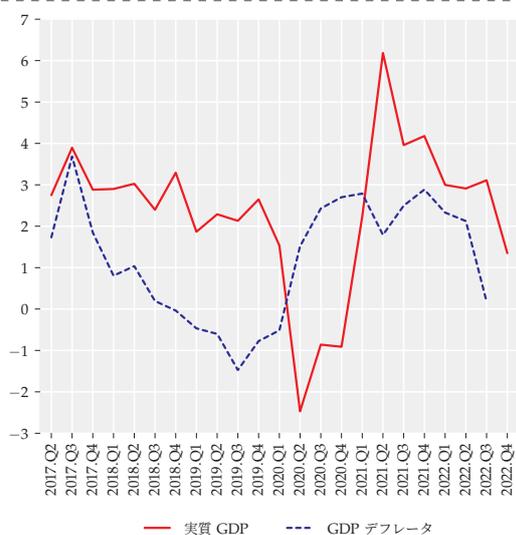


図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率  
(前年同月比, %)

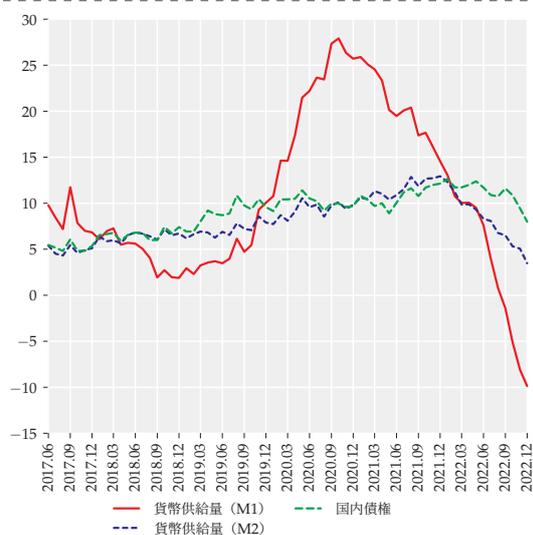


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

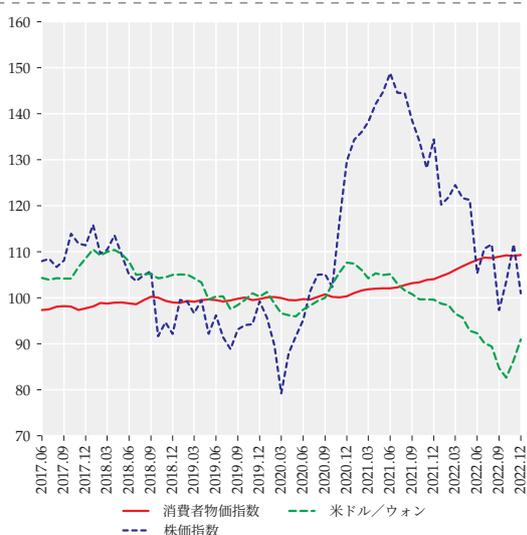
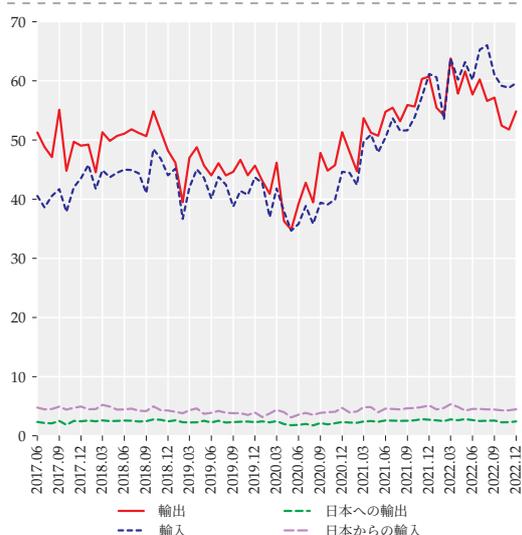


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### 韓国経済の動向 (2022年第4四半期)

韓国の2022年第4四半期の実質 GDP の伸び率(前年同期比, 以下同じ)は1.35%で, 前期の3.11%から2ポイント程度低下した。12月末の株価指数は2,236.40, 1米ドル=1296.22ウォンであった。株価とウォン相場はともに若干の上昇となった。(9月末の同指標は2,155.49, 1391.59ウォン)。さらに, 昨今の世界情勢により, 消費者物価も上昇傾向である。過去最高水準となっている外需は, 輸入が3.06%と前期の22.57%から大きく減少して, 輸出も前期の5.76%から-10%と伸びに陰りが見えている。さらに, 貨幣供給量の伸び率, 特にM1はかなり鈍化した状態が続いている。韓国の経済成長は減速しており, 成長見通しをめぐる不確実性は依然として高い。成長に対する上振れリスクとしては, 中国経済の力強い回復, 世界的なITサイクルの急速な回復, 地政学的な緊張の沈静化などがある。一方, 下振れリスクとしては, 主要国での利上げの長期化, 住宅市場の低迷, 世界的なエネルギー問題の深刻化などが挙げられる。(柯 宜均)

## 台湾の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

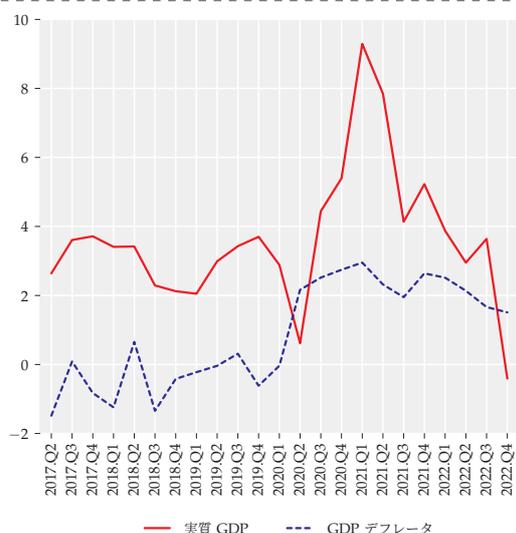


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

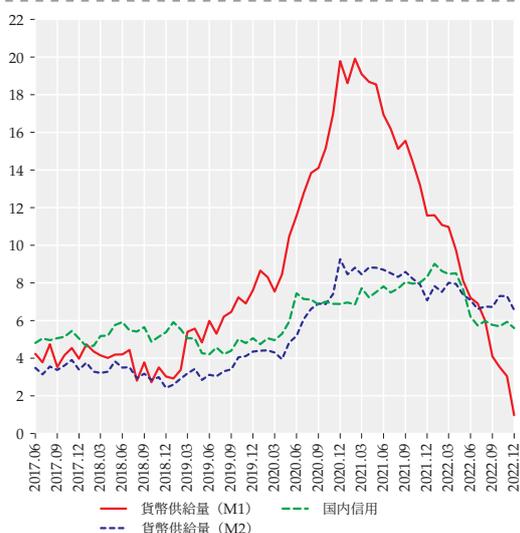
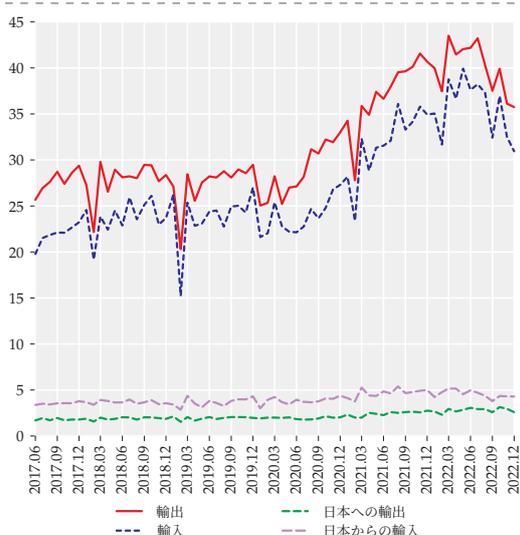


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)



図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### 台湾経済の動向 (2022年第4四半期)

台湾の経済成長率は、2022年第1四半期～第4四半期において、各々、3.87%、2.95%、3.64%、-0.41%で、2022年通年では2.45%、1人当たりGDPは3万2,811米ドルであった（主計總處2023年2月22日付資料）。国際貿易では、2022年通年の輸出額は4,794.4億米ドル、輸入額は4,280.1億米ドルで、対前年伸び率は各々、7.4%と12.1%であった。主要相手国・地域別に輸出の伸び率をみると、中国・香港-1.6%、ASEAN 14.8%、米国14.3%、欧州6.8%、日本15.1%である。近年、台湾では、DXとイノベーション経済発展のためAI・デジタル化が積極的に推進されている。主な施策として、「デジタル国家・創新経済発展方案」（2017～25年）、「台湾AI行動計画」（2018～21年）、「スマート国家方案」（2021～25年）、「台湾AI行動計画2.0」（2022年～）が打ち出され、2022年8月には「デジタル発展省」が発足した（國家科學及技術委員會「2022臺灣AI國力調査」）。

(岸本千佳司)

## インドネシアの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

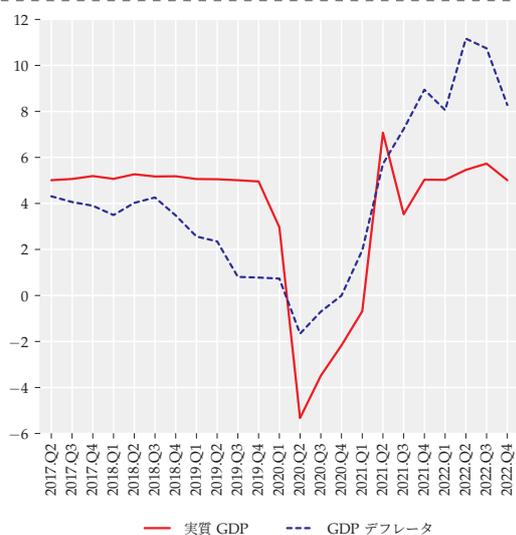


図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率  
(前年同月比, %)

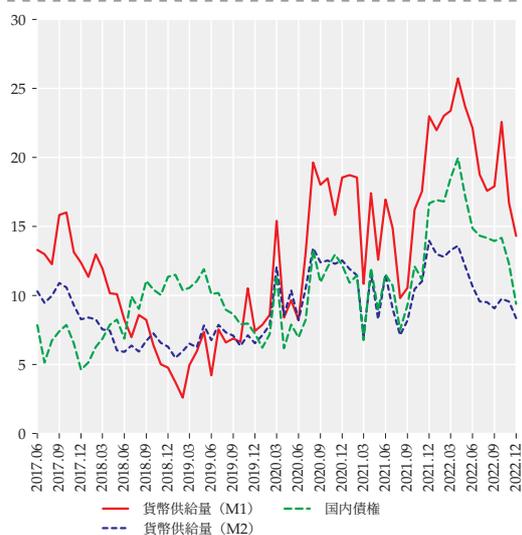
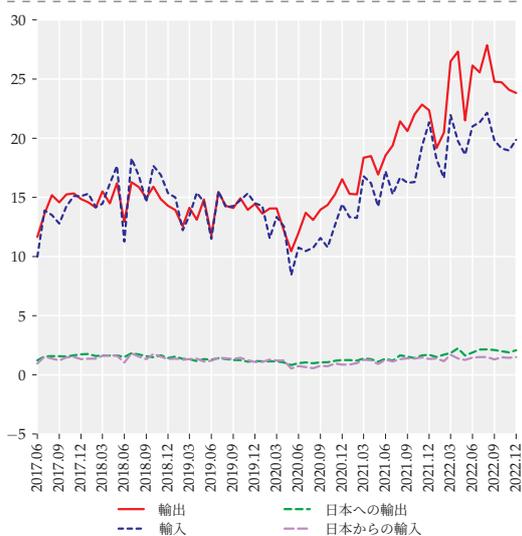


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)



図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### インドネシア経済の動向 (2022年第4四半期)

インドネシアの2022年第4四半期における実質 GDP の伸び率は 5.01 %で (前年同期比, 以下同じ), 回復傾向に陰りが見えているものの (前期は 5.73 %), 通年の伸び率は 5.31 %となっており, コロナ前に戻ってきているといえよう。回復傾向の1つの要因が外需で, 輸出は前期の 27.3 %から 8.06 %, 輸入は前期の 31.4 %から 1.73 %と, 大きく伸びが減少しているものの, 純輸出としてみれば, 成長に貢献している。しかし, 他の指標は楽観的とはいえない。1米ドル=14,000ルピア台であった為替が, 15,000ルピアを超えるようになっている。株価も7,000ポイントを切るようになっている。金融指標の急激な伸びも収まりつつある。さらに, 昨今の世界情勢から, 消費者物価が上昇傾向にある。そこで, 2月に3.50%に引き下げた政策金利を, 8月には約4年ぶりに引き上げ, 3.75%としたが, その後も引き上げが続いており, これまで累計で2.25%の引き上げとなった。

(坂本 博)

## マレーシアの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率  
(前年同月比, %)

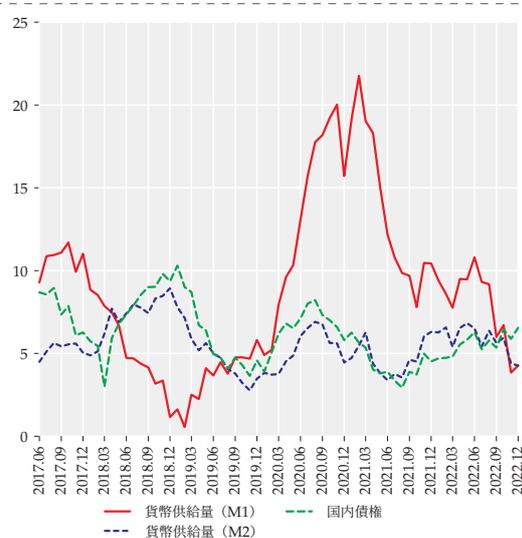


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

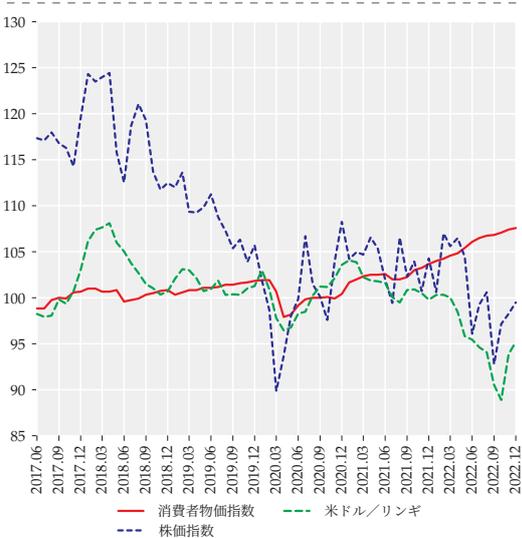
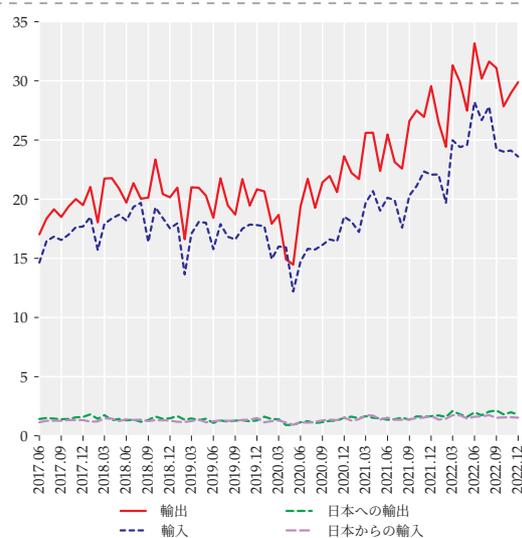


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### マレーシア経済の動向 (2022年第4四半期)

2022年第4四半期の実質 GDP は前年同期比で 7.0 %増加し、通年では 8.7 %の成長となった。民間消費と民間投資が引き続き成長の原動力となった。民間消費は主に労働市場の改善により 7.4 %の伸びを示し、民間投資は 10.3 %改善した。コア・インフレ率が 4.2 %に上昇しコスト環境が悪化している中で、需要の強さが続いていることが要因である。他の通貨と同様の経路を辿り、第4四半期は対米ドルで 5.3 %のリングイト高で終了した。リングイトはいくつかの主要貿易相手国に対しては強含みで、名目実効為替レートは当四半期に 0.4 %上昇した。また、中国の国境が予想より早く開放されたことが、投資家のリスクセンチメントを下支えた。世界的な需要減退に伴う輸出の減速は、観光事業の活発化によって部分的に緩和されるとマレーシア中銀は予想している。しかし、世界経済の成長鈍化、ウクライナ・ロシア紛争による地政学的対立の再燃、サプライチェーンの混乱悪化など、リスクバランスは依然として下向きに傾いている。(アルバロ・ドミンゲス)

## フィリピンの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

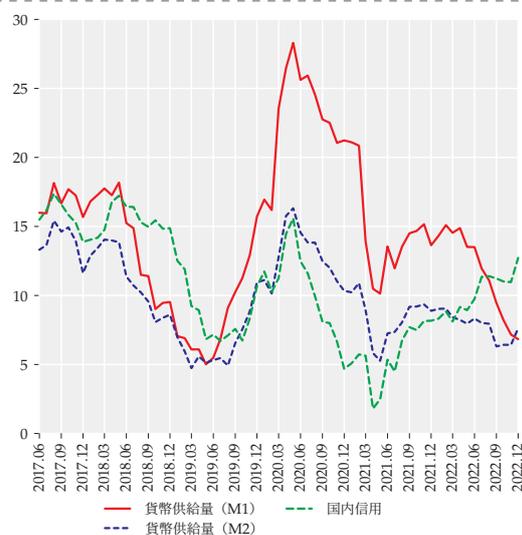


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

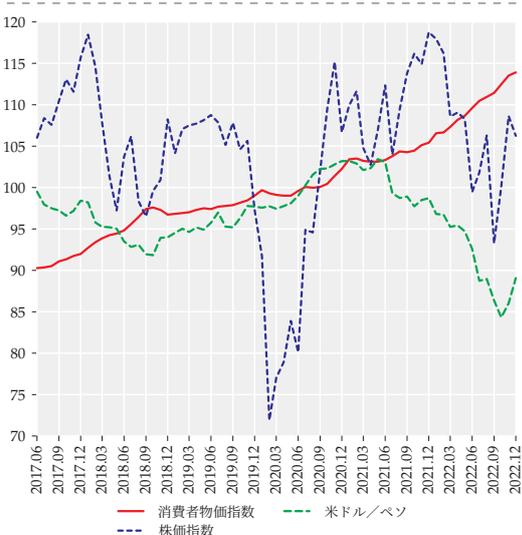
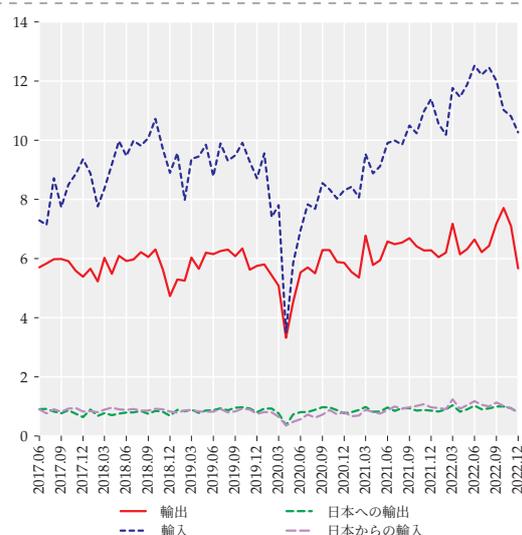


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### フィリピン経済の動向 (2022年第4四半期)

フィリピンの実質 GDP 伸び率は、2022年第1～第4四半期で、各々、8.2%、7.5%、7.6%、7.2%、2022年通年で7.6%であった。2022年第4四半期の実質 GDP 需要項目別では、前年同期比の伸び率で、民間最終消費支出は7.0%（前期は8.0%）とやや鈍化した。政府最終消費支出は3.3%（前期は0.8%）と好転した。総固定資本形成は6.3%（前期は9.9%）とやや低下した。財・サービスの輸出は14.6%（前期は13.4%）と好調を維持し、とりわけ財の輸出が10.6%（前期は4.7%）と伸びている。ただ、サービスの輸出は21.9%（前期は33.0%）と低下している。他方、財・サービスの輸入は5.9%（前期は17.8%）で、伸び率が急減している。第4四半期の伸び率を産業別にみれば、第1次産業は-0.3%（前期は2.1%）とマイナスに転じ、第2次産業は4.8%（前期は5.8%）とやや鈍化し、GDPの60%を占める第3次産業は9.8%（前期9.2%）と堅調であった。

(岸本千佳司)

## シンガポールの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

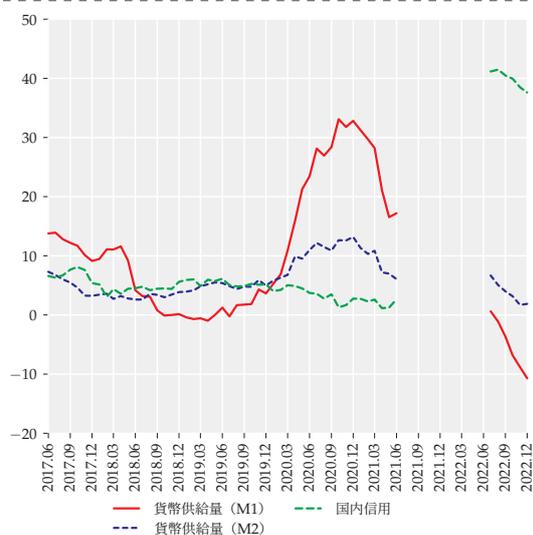


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

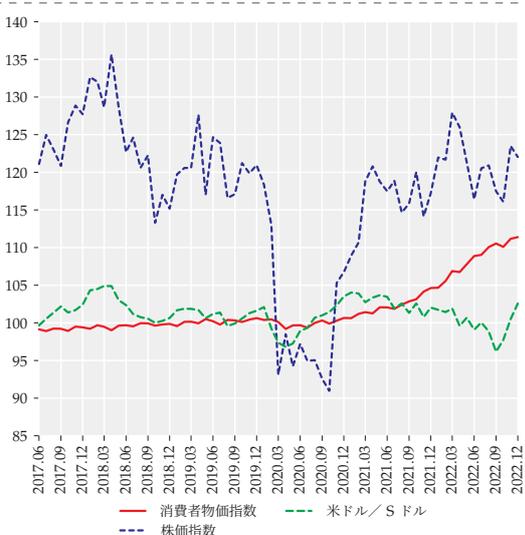
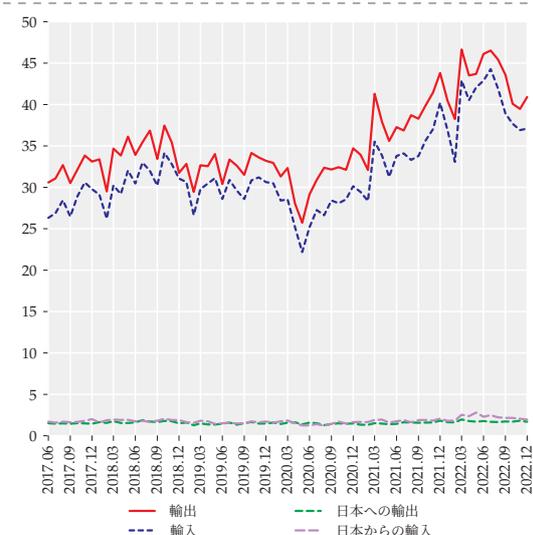


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### シンガポール経済の動向 (2022年第4四半期)

2022年第4四半期の実質 GDP は前年同期比で 2.1 %増加し、通年では 3.6 %の成長となった。製造業は前期の 1.1 %から -2.6 %のマイナス成長へと転じた。これは、バイオメディカル製品・化学製品・電子機器および一般製造での生産高減少による。小売部門は 5.1 %拡大し、前期 (8.8 %) に引き続き成長した。卸売部門は 2.4 %増加し、前期 (4.1 %) から鈍化した。建設部門は前期の 8.1 %から 10 %へと加速した。前期以降、外需は若干改善した。中国の COVID-19 規制が急速に緩和され、その成長回復が予測されている。同時に、世界的に需要が軟化する中で世界的な供給改善も続いている。このため国際商品価格は、ロシアとウクライナの紛争が続く中で依然として高止まりしているが、2022 年の水準からは緩和している。とはいえ、主要国間の紛争が激化すれば、消費者や企業の信頼に影響を与え、供給の混乱を悪化させ、国際貿易に影響を与える可能性がある。MTI は、2023 年の GDP 成長率の予測値を 0.5~2.5 %に据え置いた。(アルバロ・ドミンゲス)

## タイの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率  
(前年同月比, %)

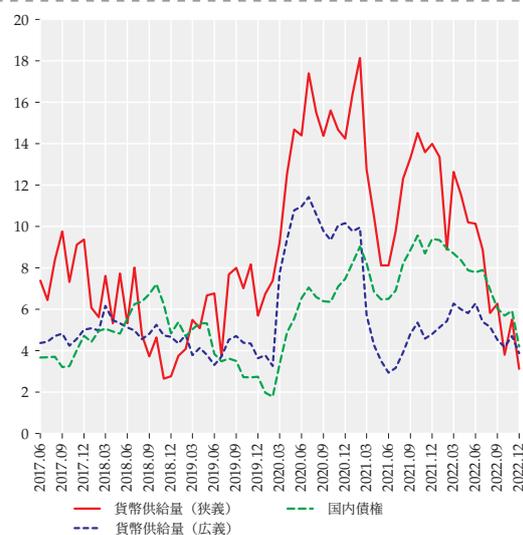


図3：消費者物価指数，株価指数，為替レート指数  
(2020年=100)

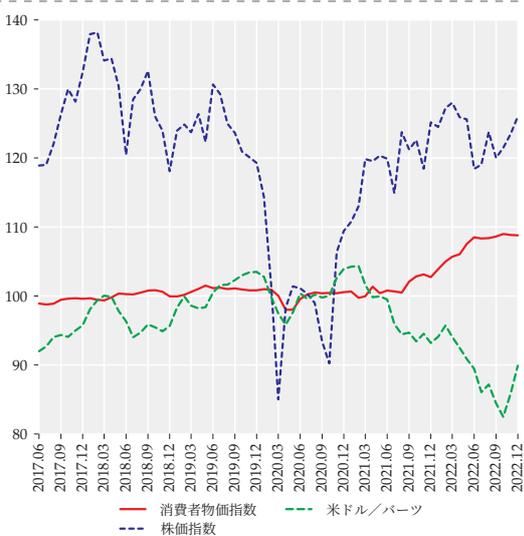
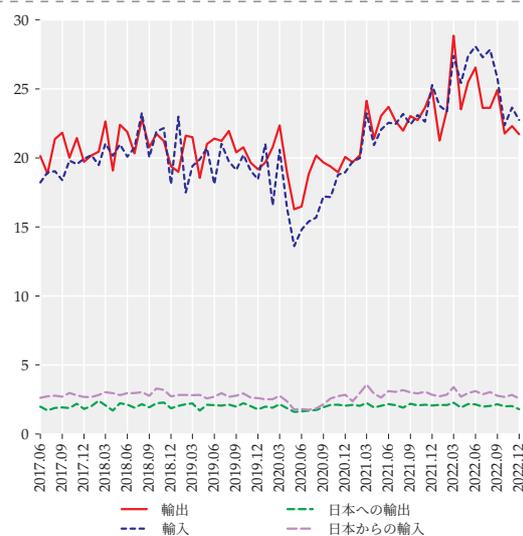


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### タイ経済の動向 (2022年第4四半期)

2022年第4四半期の実質 GDP 成長率は前年同期比で 1.4% に減速し、通年の成長率も 2.6% にとどまった。この結果は、観光産業の回復に伴う民間消費支出の増加によるものであり、前四半期の 9.1% という高い成長率からは減速したが、5.7% という堅調な伸びを示した。また、総投資額も前期の 5.5% 増から減速したが、3.9% 増と拡大した。2021 年と比較して、民間消費と投資はそれぞれ 6.3% と 5.1% 拡大し、2021 年の 0.6% と 3.0% から上昇した。ただし、貿易の急減が経済成長の妨げとなった。輸出は 10 月から 12 月まで毎月減少し、第 4 四半期は輸出が前年同期比 0.7% 減、輸入が同 4.6% 減となった。さらに 2023 年の輸出は同 1.6% 減、輸入は同 2.1% 減の見通しとなっている。一方、観光産業は好調で、2022 年の外国人観光客数は 1,120 万人と、新型コロナウイルス感染症発生以来最高を記録した。中国経済の再開によって、観光産業を中心にさらなる民間消費支出の拡大が見込まれ、2023 年の経済成長率は 2.7~3.7% と予測されている。(姚 瑩)

## ベトナムの経済指標

図1：実質 GDP の伸び率

(前年同期比, %)

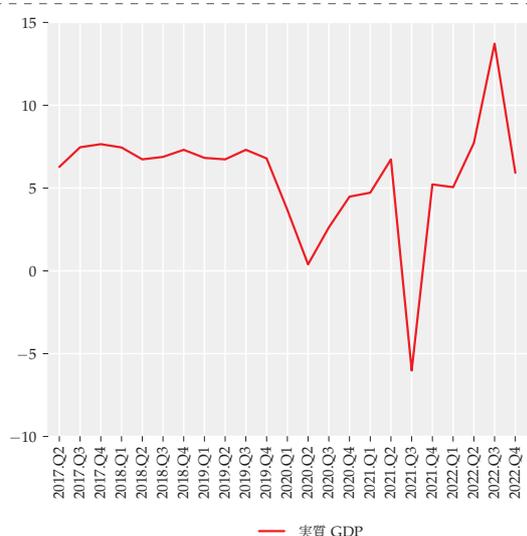


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率

(前年同月比, %)

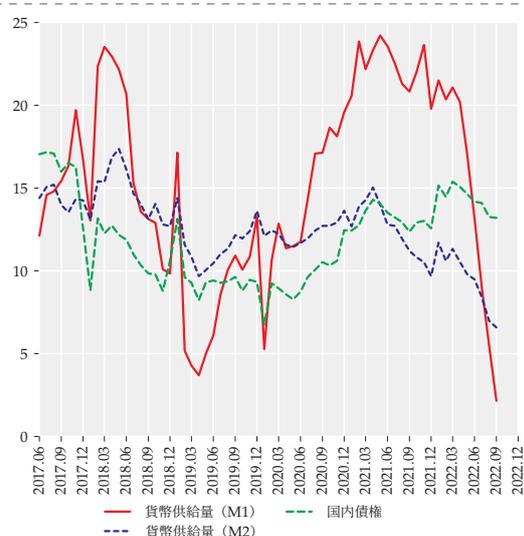


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数

(2020年=100)

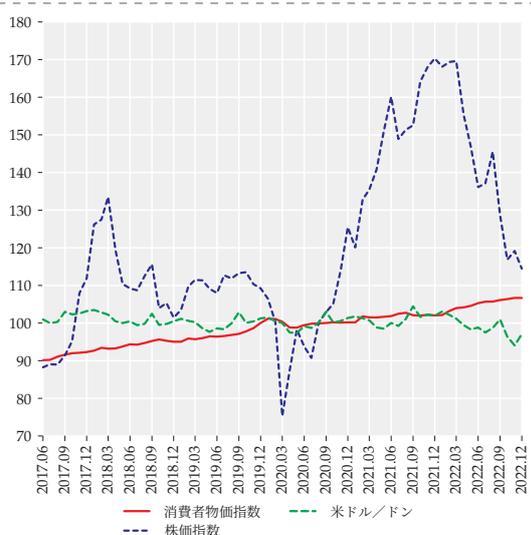
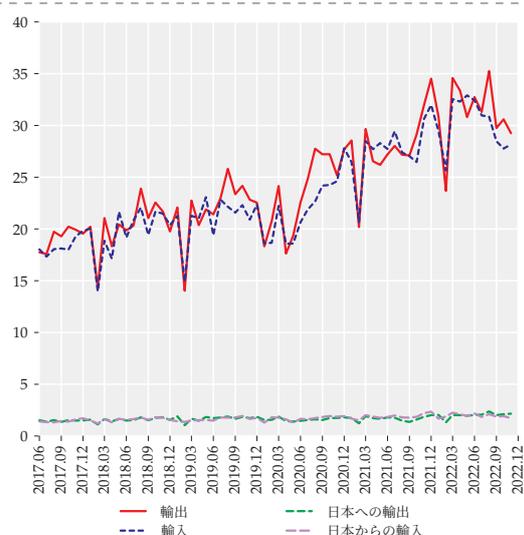


図4：輸出額と輸入額

(10億米ドル)



### ベトナム経済の動向 (2022年第4四半期)

2022年第4四半期の実質 GDP 成長率は 5.92 % となった。前年からの反動で高い成長率を記録した前期 (13.71 %) からは減速したものの、第4四半期の成長率としては、一昨年 (4.70 %) および昨年 (5.17 %) を上回った。また、2022年通年での成長率は 8.02 % の高水準となった。部門別にみると、GDP の 3 分の 1 を占める鉱工業・建設業が 4.22 % (前期は 12.19 %) と減速し、特に製造業は 2.98 % (同 11.58 %) と大きく減速した。GDP の 4 割を占めるサービス業は 8.12 % となり、前期 (19.34 %) からは減速したものの、高い水準を保った。ベトナム経済は新型コロナウイルス感染症の影響から回復しつつあるが、世界経済の不確実性は高く、先行きは不透明である。貿易額は 11 月以降減少しており、2022 年第 4 四半期の輸出額は前年同期比で -6.07 %、輸入額が -3.90 % と低調であった。株価指数は 2022 年 4 月以降下落傾向が続いている。また物価上昇も懸念材料の 1 つで、10 月以降 4 % を超える物価上昇率が継続している。 (田村一軌)

## インドの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率  
(前年同期比, %)

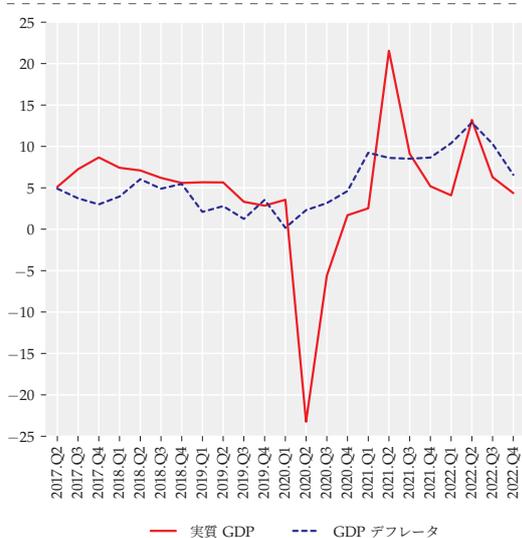


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率  
(前年同月比, %)

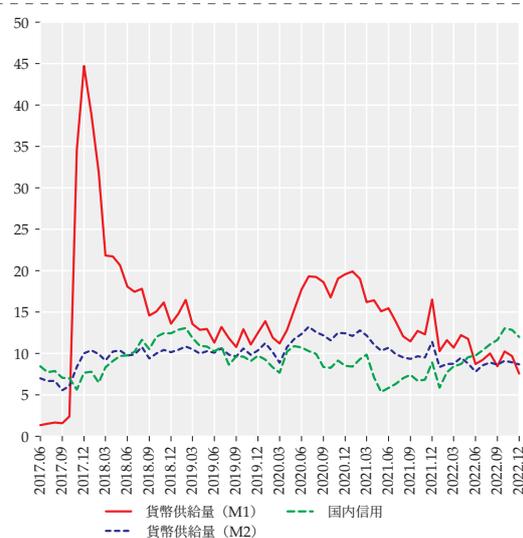


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数  
(2020年=100)

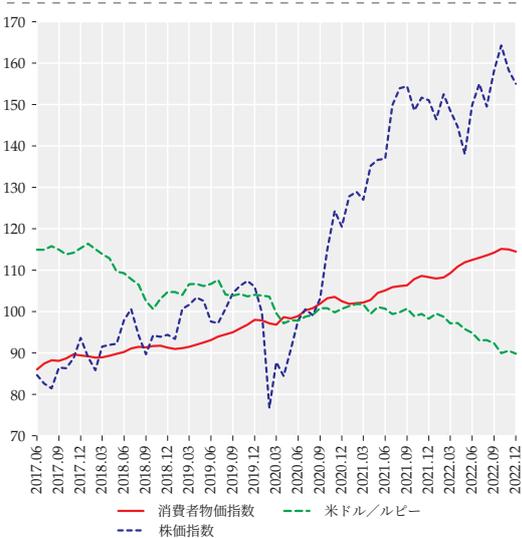
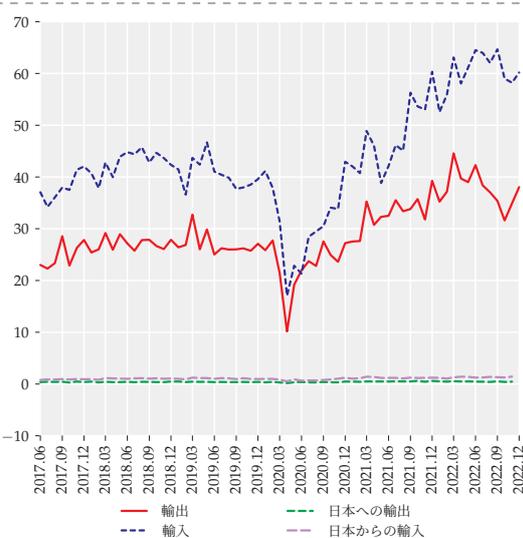


図4：輸出額と輸入額  
(10億米ドル)



### インド経済の動向 (2022年第4四半期)

2022年第4四半期のGDP成長率は4.4%となり、前年同期の5.2%を下回った。第4四半期は製造業以外の全てのセクターにおいて成長率がプラスであった。セクター別の成長率を見ると、貿易・ホテル・輸送・通信・関連サービス業と建設セクターの成長率が高く、それぞれ9.7%と8.4%であった。一方で、製造業と行政・防衛・他サービス業の成長率が低く、それぞれ-1.1%と2%であった。専門家によると、第4四半期の成長率の鈍化は、主に製造業のマイナス成長と消費の勢いの鈍化に起因する。消費の低下は、中央銀行による金利引き上げが需要に打撃を与えたことが主な原因である。統計・事業実施省 (Ministry of Statistics and Programme Implementation) によると、インドの2022-23会計年度のGDP成長率は7%になると予想されている。

(プラモッド・クマール・スール)

## 図に関するデータの出所および注

### 日本：

- 図 1 内閣府経済社会総合研究所 (<https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/menu.html>)
- 図 2 日本銀行 (<https://www.stat-search.boj.or.jp>)
- 図 3 消費者物価指数：総務省統計局 (<https://www.stat.go.jp/data/cpi/index.html>)；株価指数：日本経済新聞社，日経平均プロフィール (<https://indexes.nikkei.co.jp/nkave/index/profile?idx=nk225>)；為替レート指数：日本銀行 (<https://www.stat-search.boj.or.jp>)
- 図 4 財務省 (<https://www.customs.go.jp/toukei/suii/html/time.htm>)；東アジアは中国，香港，韓国，台湾，インドネシア，マレーシア，フィリピン，シンガポール，タイ，ベトナムの合計

### 中国：

- 図 1 China, National Bureau of Statistics, *Statistical Database* (<http://www.stats.gov.cn/english/Statisticaldata/>)
- 図 2, 図 3 China, Statistics and Analysis Department, The People's Bank of China (<http://www.pbc.gov.cn/diaochatongjisi/116219/index.html>)
- 図 3 消費者物価指数：China, National Bureau of Statistics, *Statistical Database* (<http://www.stats.gov.cn/english/Statisticaldata/>)
- 図 4 China, General Administration of Customs, *Statistics / Monthly Bulletin* (<http://english.customs.gov.cn/statics/report/monthly.html>)

### 香港：

- 図 1, 図 4 Hong Kong, Census and Statistics Department (<https://www.censtatd.gov.hk/en/>)
- 図 2, 図 3 Hong Kong, Monetary Authority, *Monthly Statistical Bulletin* (<https://www.hkma.gov.hk/eng/market-data-and-statistics/monthly-statistical-bulletin>)

### 韓国：

- 図 1, 図 2, 図 3, 図 4 Korea, Bank of Korea (<https://ecos.bok.or.kr>)
- 図 3 株価指数：Yahoo (<https://finance.yahoo.com/quote/%5EKSI1/history>)

### 台湾：

- 図 1 Republic of China, Directorate-General of Budget, Accounting and Statistics, *National Statistics* (<https://eng.stat.gov.tw/cl.aspx?n=2332>)
- 図 2 Republic of China, Central Bank of China (<https://www.cbc.gov.tw/en/cp-511-2069-A8BEF-2.html>)
- 図 3 消費者物価指数：Republic of China, Directorate-General of Budget, Accounting and Statistics, *National Statistics* (<https://statdb.dgbas.gov.tw/pxweb/dialog/statfile1L.asp>)；株価指数：Yahoo (<https://finance.yahoo.com/quote/%5ETWII/history>)；為替レート指数：Republic of China, Central Bank of China (<https://www.cbc.gov.tw/en/cp-480-58819-C8475-2.html>)
- 図 4 Republic of China, Customs Administration, Ministry of Finance, *CPT Single Window, Statistical Database Query* (<https://portal.sw.nat.gov.tw/APGA/GA30E>)

### インドネシア：

- 図 1, 図 4 Indonesia, Statistics Indonesia (<https://www.bps.go.id>)
- 図 2 Indonesia, Bank Indonesia, *Indonesian Financial Statistics* (<https://www.bi.go.id/en/statistik/ekonomi-keuangan/seki/Default.aspx>)
- 図 3 株価指数：Yahoo (<https://finance.yahoo.com/quote/%5EJKSE/history>)；消費者物価指数：Indonesia, Statistics Indonesia (<https://www.bps.go.id/subject/3/inflasi.html>)；為替レート：Indonesia, Bank Indonesia (<https://www.bi.go.id/en/statistik/informasi-kurs>)

### マレーシア：

- 図 1 Bank Negara Malaysia, *National Summary Data Page for Malaysia* (<https://www.bnm.gov.my/national-summary-data-page-for-malaysia>)
- 図 2, 図 3 Bank Negara Malaysia, Bank Negara Malaysia, *Monthly Highlights and Statistics* (<https://www.bnm.gov.my/publications/mhs>)
- 図 2 国内債権：International Monetary Fund, *International Financial Statistics* (<https://data.imf.org/ifs>)
- 図 3 株価指数：Bloomberg (<https://www.bloomberg.co.jp/quote/FBMKLCI:IND>)
- 図 4 Malaysia, Department of Statistics, *Malaysia External Trade Statistics* (<https://metsonline.dosm.gov.my/>)

## フィリピン：

- 図1 Philippines, Philippine Statistics Authority, *National Accounts* (<https://psa.gov.ph/national-accounts/base-2018/data-series>)
- 図2 Philippines, Bangko Sentral ng Pilipinas, *Financial System Accounts* (<https://www.bsp.gov.ph/SitePages/Statistics/Financial%20System%20Accounts.aspx?TabId=3>)
- 図3 消費者物価指数：Philippines, Bangko Sentral ng Pilipinas, *Statistics – Prices* (<https://www.bsp.gov.ph/SitePages/Statistics/Prices.aspx?TabId=1>)；為替レート指数：Philippines, Bangko Sentral ng Pilipinas, *Statistics – External Account* (<https://www.bsp.gov.ph/SitePages/Statistics/External.aspx?TabId=9>)；株価指数：Yahoo Finance (<https://finance.yahoo.com/quote/PSEI.PS/history>)
- 図4 Philippines, Philippine Statistics Authority, *Foreign Trade* (<https://psa.gov.ph/statistics/foreign-trade>)

## シンガポール：

- 図1 Singapore, Department of Statistics (<https://www.singstat.gov.sg/find-data/search-by-theme/economy/national-accounts>)
- 図2 Singapore, Monetary Authority of Singapore, *Monthly Statistical Bulletin* (<https://www.mas.gov.sg/Statistics/Monthly-Statistical-Bulletin/Money-and-Banking.aspx>)；シンガポール金融管理局が2021年7月から統計の集計方法を変更したため、それ以降2022年6月までの前年同月比を計算していない。
- 図3 消費者物価指数：Singapore, Department of Statistic, (<https://www.singstat.gov.sg/find-data/search-by-theme/economy/prices-and-price-indices>)；株価指数：Singapore, Monetary Authority of Singapore, *Monthly Statistical Bulletin* (<https://www.mas.gov.sg/Statistics/Monthly-Statistical-Bulletin/Financial-Markets.aspx>)；為替レート指数：Singapore, Monetary Authority of Singapore, *Exchange Rates* (<https://www.mas.gov.sg/statistics/exchange-rates>)
- 図4 Singapore, Department of Statistic (<https://www.singstat.gov.sg/find-data/search-by-theme/trade-and-investment/merchandise-trade>)

## タイ：

- 図1 Thailand, National Economic and Social Development Council (<https://www.nesdc.go.th/nesdb-en/main.php?filename=nationalaccount>)
- 図2 Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/EconomicAndFinancial/Pages/StatMFSSurvey.aspx>)
- 図3 消費者物価指数：Thailand, Ministry of Commerce, Bureau of Trade and Economic Indices ([http://www.price.moc.go.th/en/home\\_en](http://www.price.moc.go.th/en/home_en))；株価指数：Thailand, The Stock Exchange of Thailand, *Market Statistics* (<https://classic.set.or.th/en/market/market-statistics.html>)；為替レート指数：Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/FinancialMarkets/ExchangeRate/Pages/StatExchangeRate.aspx>)
- 図4 Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/EconomicAndFinancial/Pages/StatInternationalTrade.aspx>)

## ベトナム：

- 図1 Vietnam, General Statistics Office, *National Accounts* (<https://www.gso.gov.vn/en/national-accounts/>)
- 図2 International Monetary Fund, *International Financial Statistics* (<https://data.imf.org/ifs>)
- 図3 消費者物価指数および為替レート：Vietnam, General Statistics Office, *Consumer price index archive* (<https://www.gso.gov.vn/en/cpi/>)；株価指数：Fusion Media, *Investing.com* (<https://www.investing.com/indices/vn-historical-data>)
- 図4 2017年3月まで：International Monetary Fund, *Direction of Trade Statistics, September 2017 CD-ROM*；それ以降：Vietnam, General Statistics Office, Thematic Data, *Import-Export archive* (<https://www.gso.gov.vn/en/import-export/>)

## インド：

- 図1, 図2, 図3, 図4 Reserve Bank of India, Database on India's Economy, Statistics tab (<https://dbie.rbi.org.in/DBIE/dbie.rbi?site=statistics>)
- 図1 2022年第4四半期：India, Ministry of Statistics and Programme Implementation (<https://www.mospi.gov.in>)
- 図3 2021年2月の消費者物価指数：India, Ministry of Statistics and Programme Implementation (<https://www.mospi.gov.in>)；株価指数：Yahoo (<https://finance.yahoo.com/quote/%5EBSESN/history>)
- 図4 日本との輸出入：International Monetary Fund, *Direction of Trade Statistics* (<https://data.imf.org/dot>)